

学校教育自己診断について

学校教育自己診断実施時期：平成28年10月27日～11月25日

調査対象者：生徒790名（1年288名、2年271名、3年231名）11月1日現在
保護者790名（全校生徒数790名分）
教職員93名

回収状況（回収率）：

生徒710名（89.9%）1年254（88.2%）2年250（92.3%）3年206（89.2%）
〔昨年度692名（85.2%）1年285（85.3%）2年225（85.9%）3年182（84.3%）〕
保護者305名（38.6%）〔昨年度241（29.7%）〕
教職員89名（89.2%）〔昨年度59（62.1%）〕

診断結果分析

肯定的な意見（①よくあてはまる、②ややあてはまる）と否定的な意見（③あまりあてはまらない、④まったくあてはまらない）に分けて分析を進めた。全体的に回収率が上がっており、本校教育に関して興味を持って見ていただけていると感じている。

1. 生徒

- ・全体としては肯定的な意見が昨年度より増加している。（H27年度66.8%→H28年度68.2%）で、特に「先生の指導は納得できる」については全体として増加しており、生活指導部をはじめとする教員の丁寧な指導が実を結びつつある。
- ・「授業はわかりやすく行われている」について1年生で昨年より増加、2年生では減少。1年生では英語に加えて数学での少人数での展開授業、国語の基礎学力の時間（ティーム・ティーチング）を今年度より実施。キャリアガイダンスの時間を使った基礎学力向上の取組みについても高評価につながったと思われる。2年生では、内容が専門的分野に入り、内容が難しく感じているのかもしれない。
- ・1・3年については肯定的な意見が多いが、2年については全体的に下がっている。（H27年度69.5%→H28年度64.6%）
- ・「学校の施設は、授業や生活がしやすいように、整備されている」については、全体的に減少。今年度も自由記述でトイレの美化について意見が出ている他、実習室の環境整備に関する意見も上がっている。
- ・「担任以外に相談できる先生がいる」については、前年度同学年より下がっているが、学年進行で見ると増加している。所属の系が決まり、教員との距離が近づいていると考えられる。

2. 保護者

- ・全般的には、肯定的な意見が75%を維持できている。（1年保護者については80%超）
- ・Webページやメール配信について、助かっているとの意見がある一方、「学校行事に参加したことがある」の項目で肯定的な意見が増加したものの、約半数。
- ・自由記述で、専門系の内容がよくわからなかったとの意見があり、ていねいに説明できるようにしたい。
- ・学校施設・設備については生徒・保護者とも評価が下がっている。

3. 教員

- ・「教育相談体制が整備されている」は肯定的な意見が増加しているが、「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導をおこなっている」は減少している。
- ・「生徒一人ひとりが興味・関心・適正に応じて進路が選べるようきめ細やかな指導がおこなっている」「生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」の項目で肯定的な意見が増加しており教員自身が生徒に寄り添った丁寧な指導を意識していることを示している。
- ・自由記述で組織だって対応していない、個人的な力に頼りすぎているという意見があるものの「教育活動全般にわたる評価をおこない、次年度の計画に活かしている」の肯定的な意見が増加している。風通しの良い職場づくりやPDCAサイクルによる教育課題改善の取り組みを推進していきたい。